

クニミネ工業株式会社

2023年3月期
決算説明会

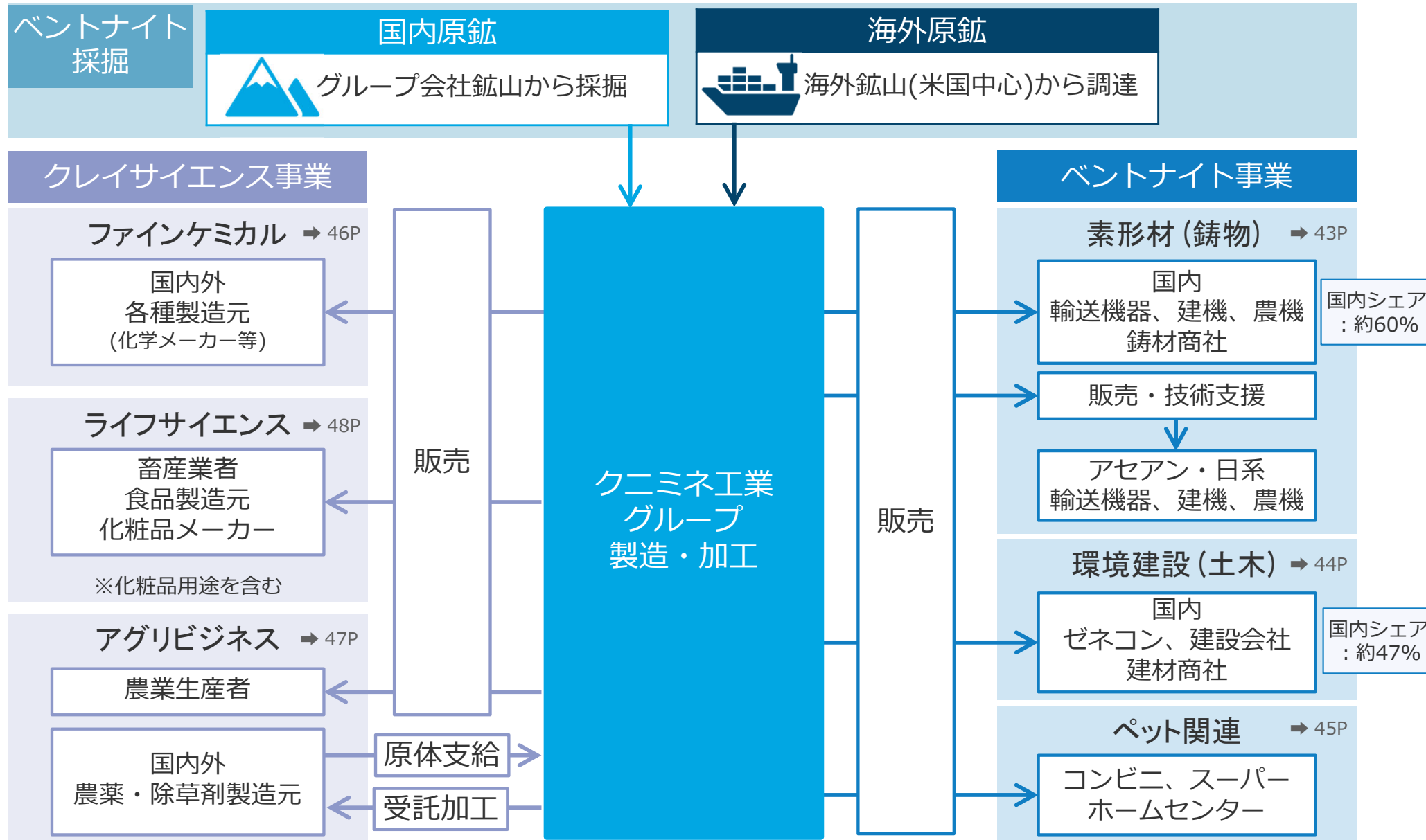


2023年6月9日
スタンダード市場
証券コード：5388

当社ビジネスモデル・事業目的

当社ビジネスモデル

ベントナイトの採掘、加工、販売のニッチトップ企業



『資源を科学して未来のニーズを創造、産業の発展、社会インフラ整備に貢献する』

当社グループは、貴重な地下資源である「ベントナイト」の採掘・製造・販売事業のほか、ファインケミカル、アグリビジネス、ライフサイエンスを推進するクレイサイエンス事業を展開しております。未来のニーズを創造することで、お客様に新しい価値を提供し続けています。

■ クレイサイエンス事業

- 粘土素材(クレイ)を科学(サイエンス)することで、貴重な地下資源から持続可能な価値を創造し、既存領域の拡大と新規事業の創出を推進

■ ファインケミカル

『粘土の未知なる魅力を発見し、粘土の力で世界を変える』

- 高機能品(精製ベントナイト、合成スメクタイト等)

■ アグリビジネス

『農薬粒剤の生産活動を通じて食の安定供給に貢献し、農業分野の多様なニーズに対応』

- 農薬粒剤の受託加工、農薬向け原材料、成長促進剤

■ ライフサイエンス

『生命を事業領域と捉え、粘土の可能性を追求する』

- 畜産向け飼料添加物、赤潮対策剤、化粧品原料

■ ベントナイト事業

- モンモリロナイトを主成分とする粘土鉱物を加工し、膨潤性・増粘性などの特性を活用して、様々な事業分野に展開

■ 素形材(鋳物)分野

『耐熱特性に応じた製品、体系化した技術を通じて、素形材産業にソリューションを提供する』

- 鋳物用成型砂の粘結材

■ 環境建設(土木)分野

『土と水にイノベーションを起こし、地球環境問題に貢献する』

- 掘削地盤の壁面保護や地盤との隙間充填材

■ ペット分野

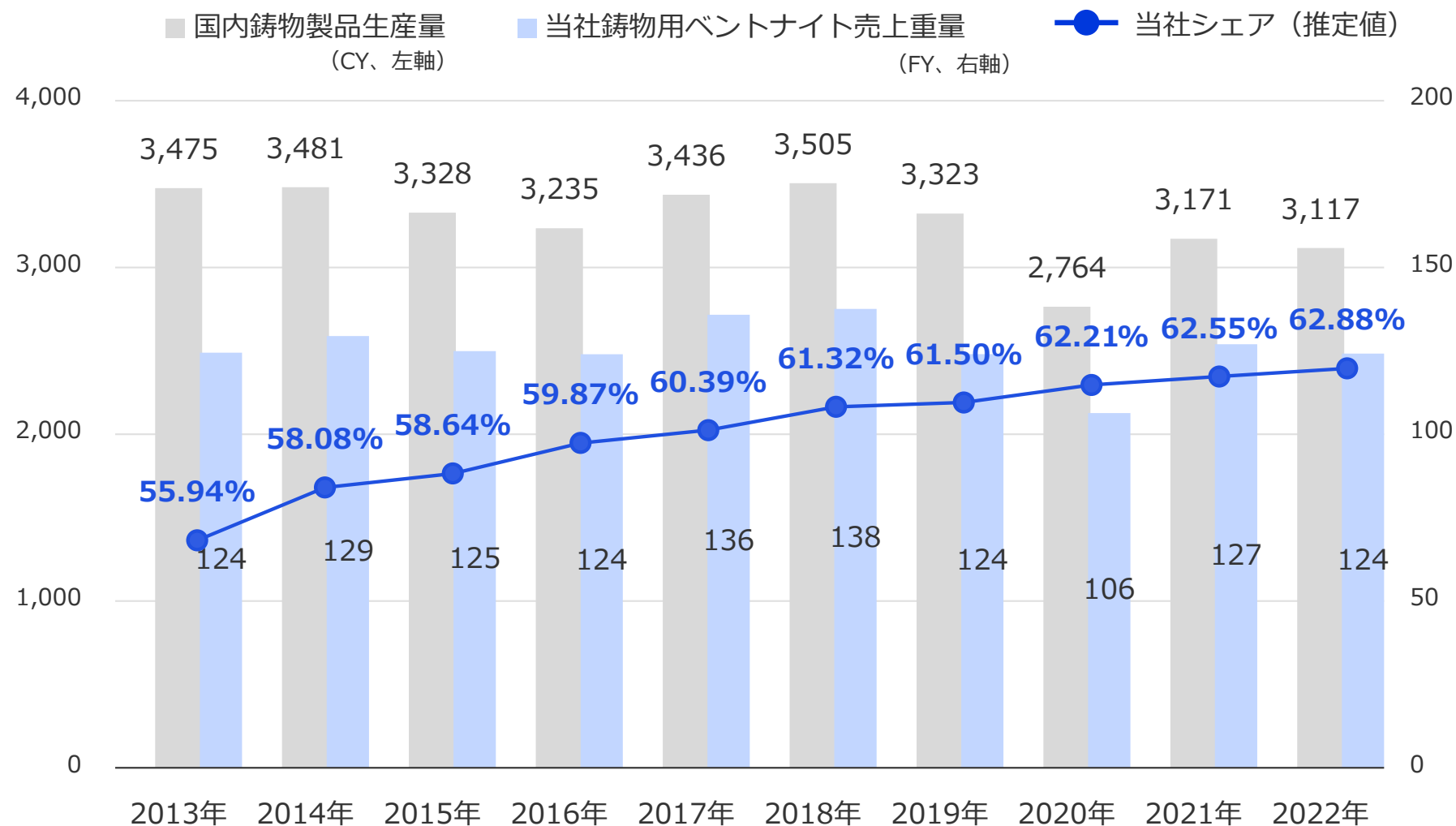
『ペットとの暮らしに快適さを与え、社会に癒しと笑顔を創造する』

- 猫用トイレ砂

ベントナイト事業 鋳物分野 国内シェア推移

(単位：千t)

(単位：千t)



出所：一般社団法人日本鋳造協会
銑鉄鋳物製品別生産量

※鋳物製品生産量より国内ベントナイト使用量を当社基準で推定し、シェアを算出

1 業績トピックス

2 2023年3月期 決算概要

3 2024年3月期 予想

4 中期経営計画の状況

5 サステナビリティへの取組み



グループ全体 ⇒ 増収減益

(売上：+0.4% 営利:▲50.3%)

価格改定を進めるが、販売減もあり売上は前年並み
円安・エネルギー価格等のコスト増加により大幅減益



素形材(鋳物)[ベントナイト事業] ⇒ 増収減益

(売上：+13.3% 営利:▲40.9%)

価格改定により増収となるが、原材料高騰で大幅減益



環境建設(土木)[ベントナイト事業] ⇒ 減収減益

(売上：▲16.0% 営利:▲57.5% ※一般土木+復興)

福島復興案件終息、原材料高騰により大幅減益

1 業績トピックス

2 2023年3月期 決算概要

3 2024年3月期 予想

4 中期経営計画の状況

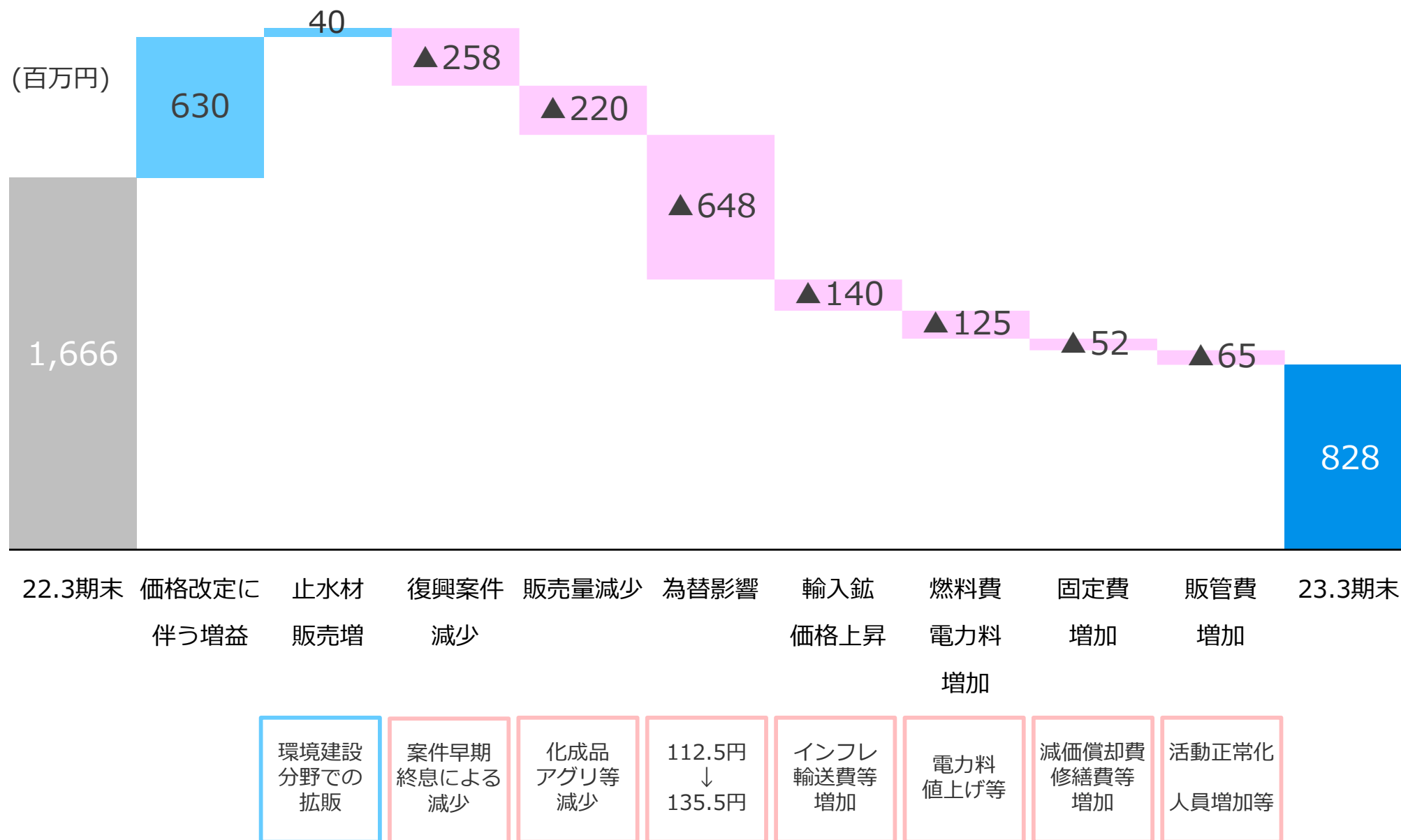
5 サステナビリティへの取組み

2023年3月期 決算概要

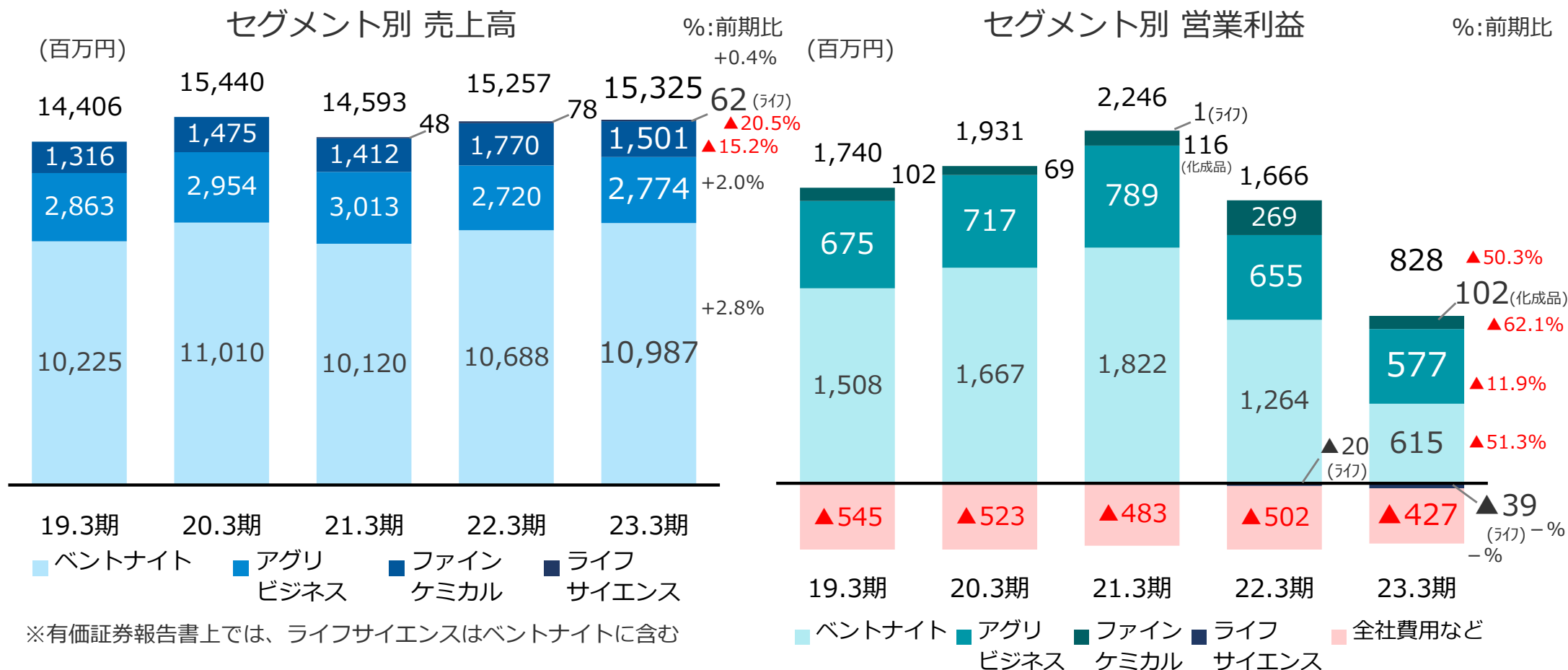
- 売上高は価格改定効果が寄与し、前年を上回り計画を達成
- 各段階利益は為替変動、エネルギー価格高騰の影響等により計画・前年共に下回る

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比	2023年 3月期計画 (22年9月修正)	計画比
売上高	15,257	15,325	+0.4%	15,300	+0.1%
営業利益	1,666	828	▲50.3%	1,100	▲24.7%
経常利益	1,913	1,373	▲28.2%	1,500	▲8.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,301	842	▲35.3%	1,050	▲19.8%

22.3期→23.3期 営業利益増減要因



セグメント別業績

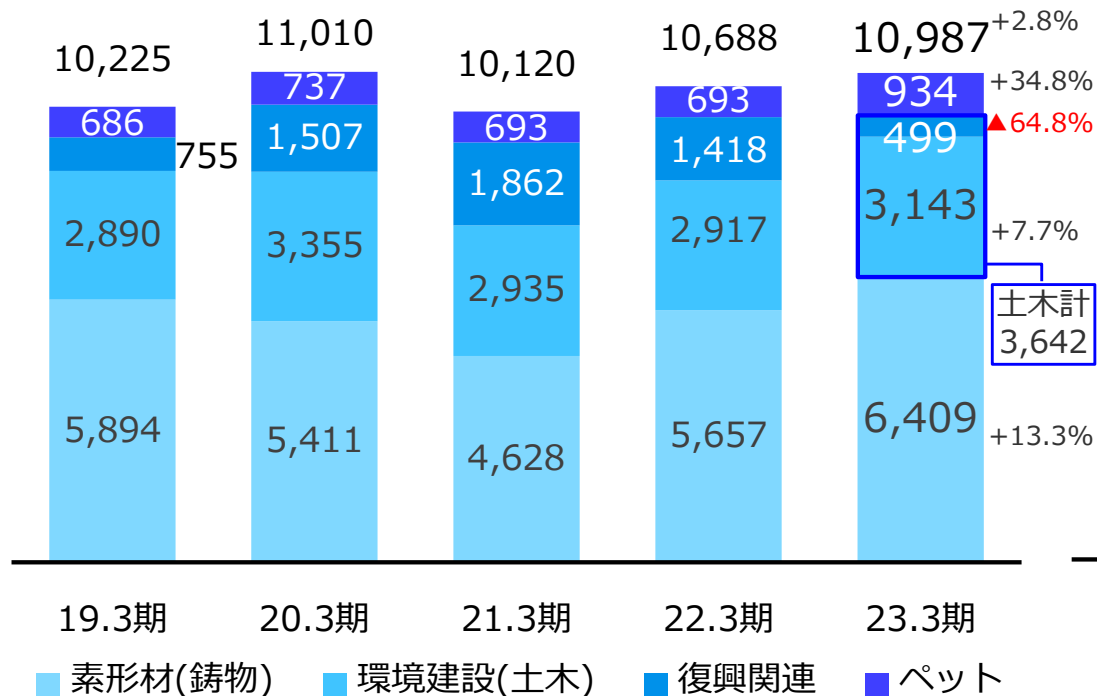


- ベントナイト …価格改定効果で素形材(鋳物)が回復するものの、原材料高騰により増収減益
- アグリビジネス …前期同等の販売量は維持するものの、品目構成の変化により増収減益
- ファインケミカル …前期のコロナ禍反動需要が一服し、減収減益
- ライフサイエンス …新製品の販売遅れにより、減収減益

ベントナイト事業 分野別業績

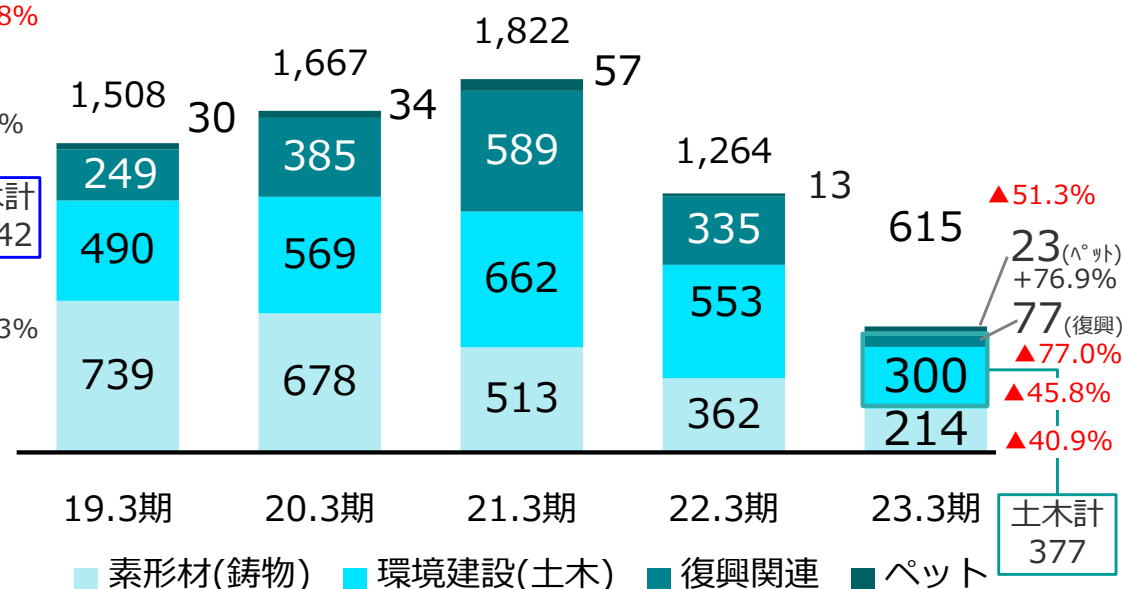
(百万円) ベントナイト事業 売上高

%:前期比



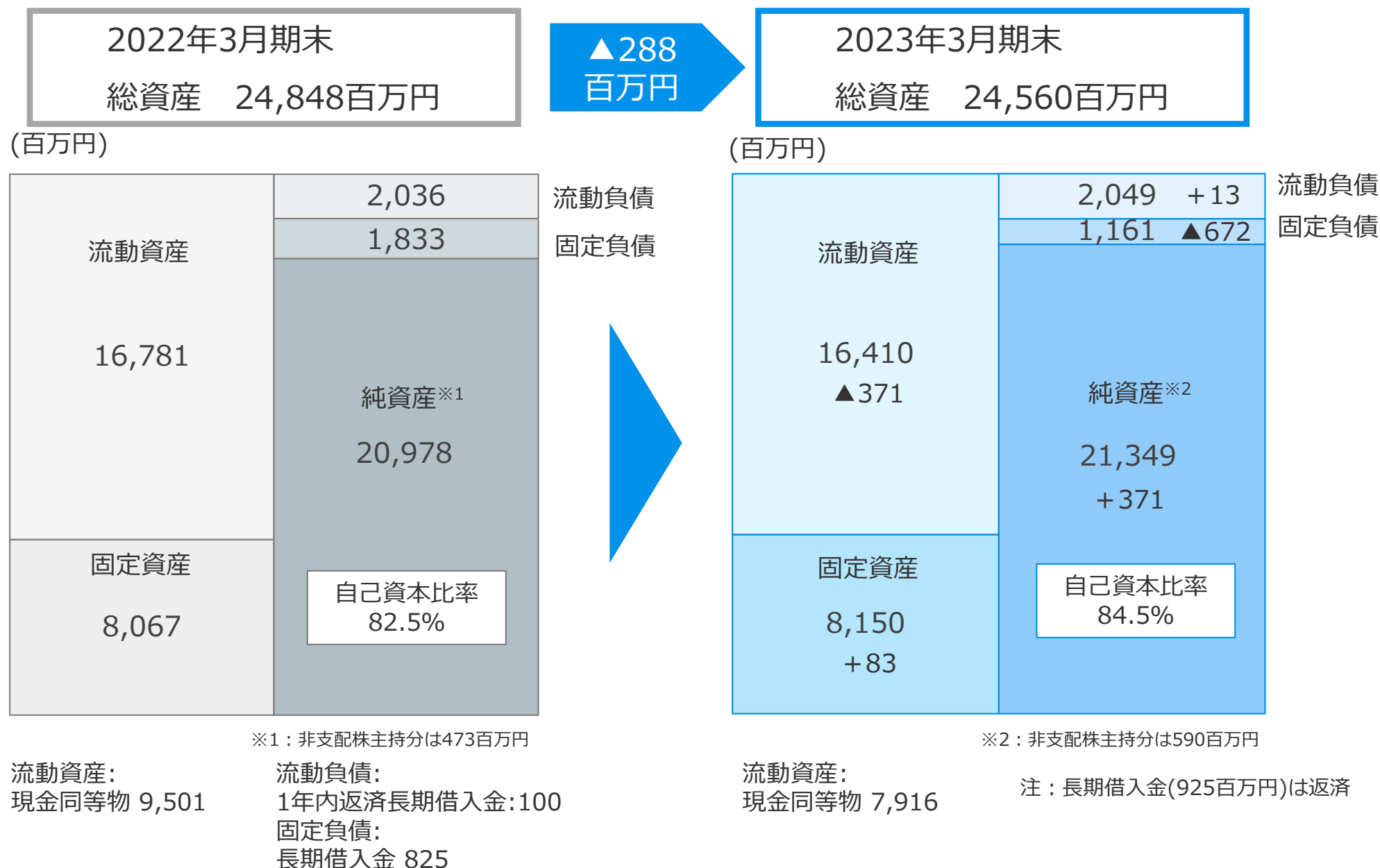
(百万円) ベントナイト事業 営業利益

%:前期比

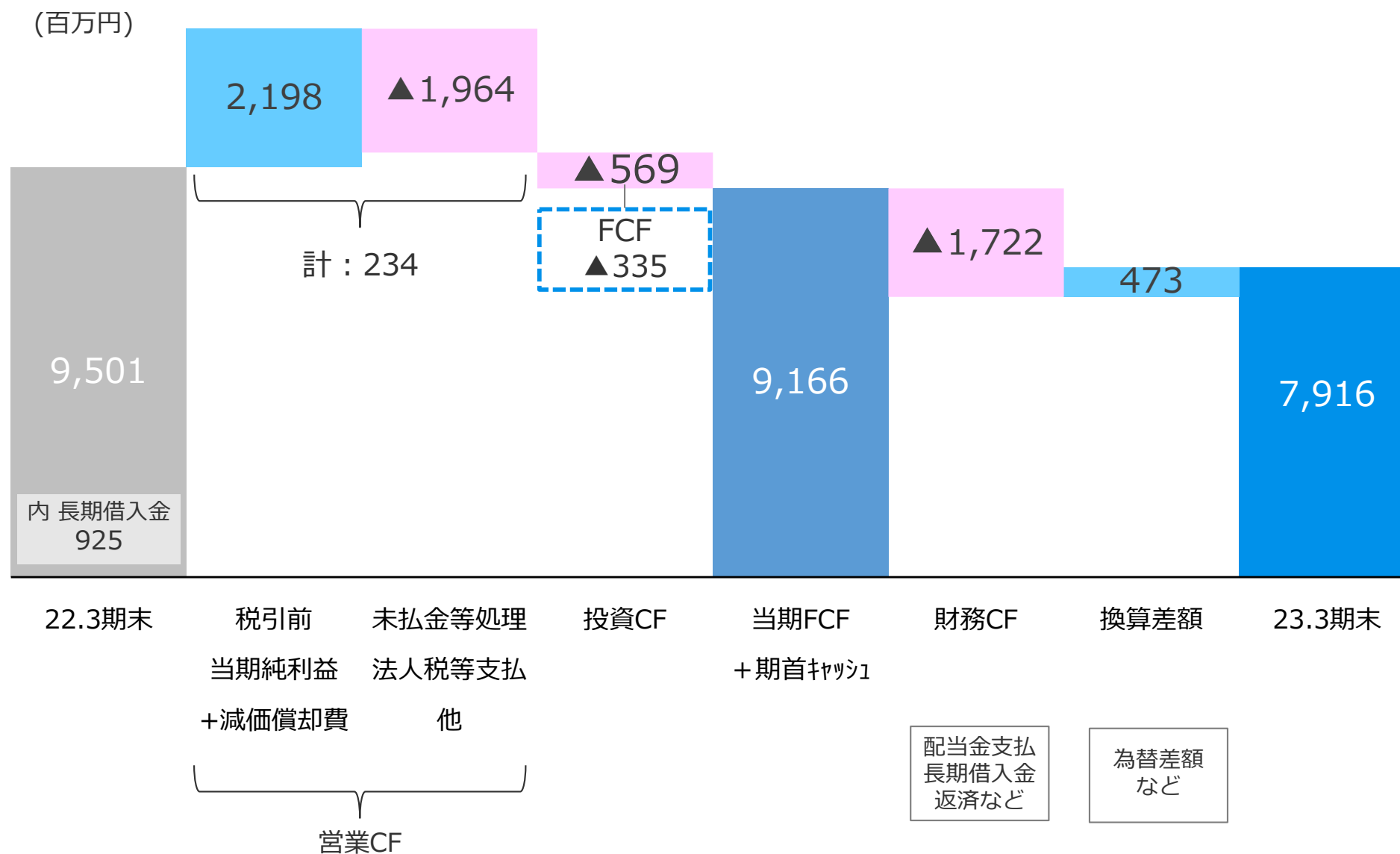


- 素形材(鋳物) …価格改定を進めるものの、反映にタイムラグがあり増収減益
- 環境建設(土木) …止水材等販売量が伸びるものの、大型案件の延期・停止により増収減益
- 復興関連 …案件終息により、減収減益
- ペット …PB(プライベートブランド)品が好調に推移し、増収増益

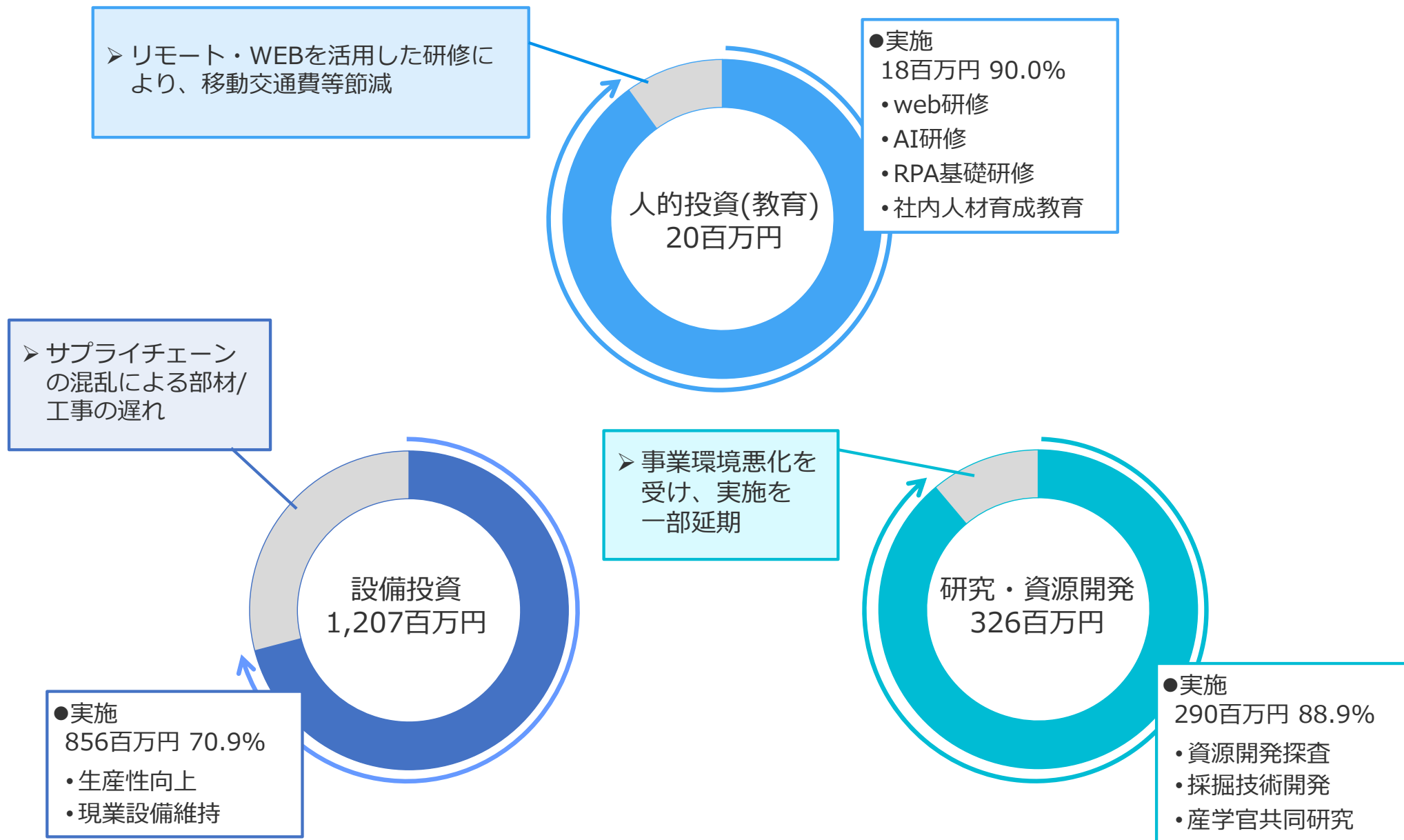
2023年3月期 貸借対照表の概要



2023年3月期 キャッシュフロー要約



投資政策の状況



1 業績トピックス

2 2023年3月期 決算概要

3 2024年3月期 予想

4 中期経営計画の状況

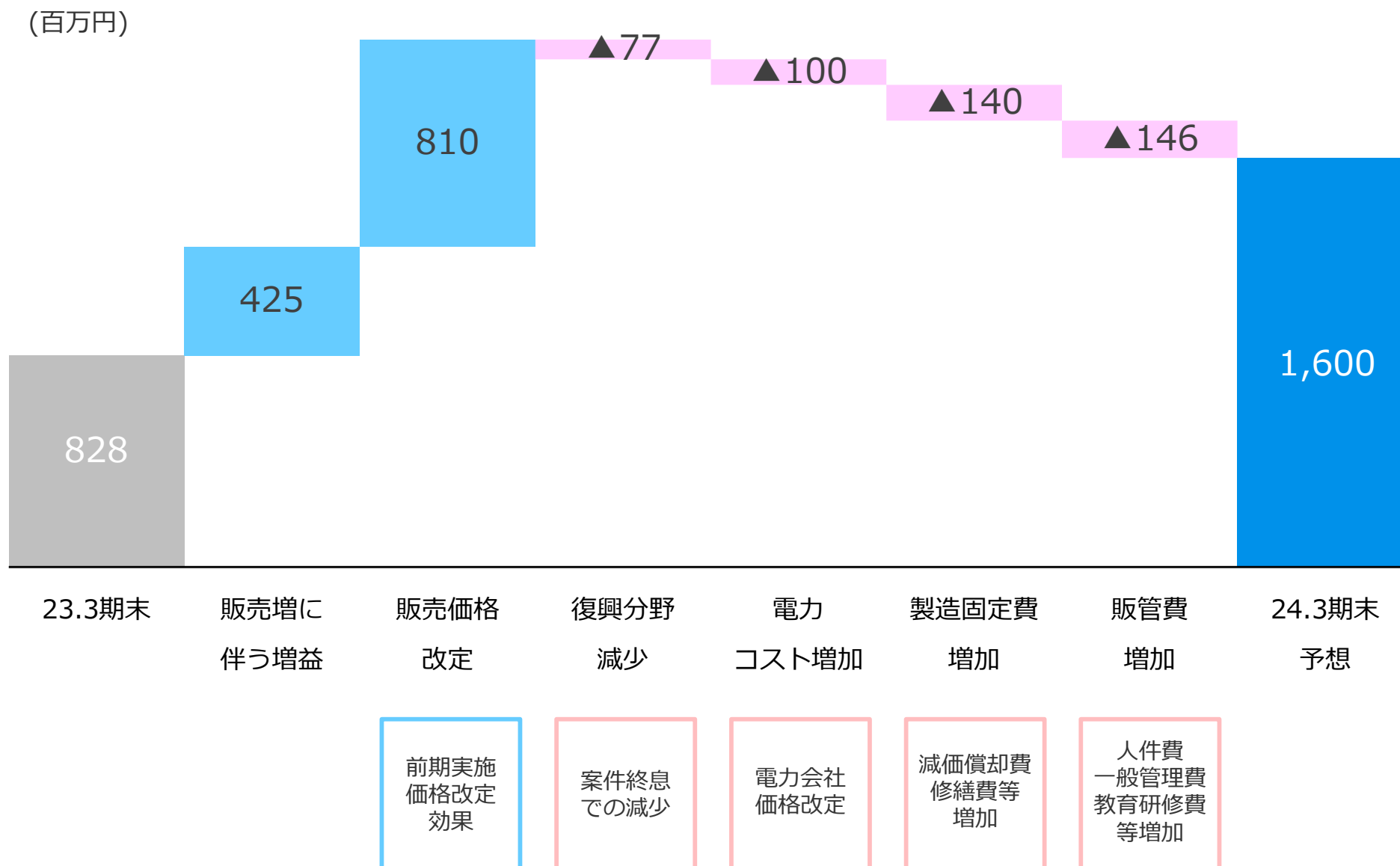
5 サステナビリティへの取組み

2024年3月期 通期予想

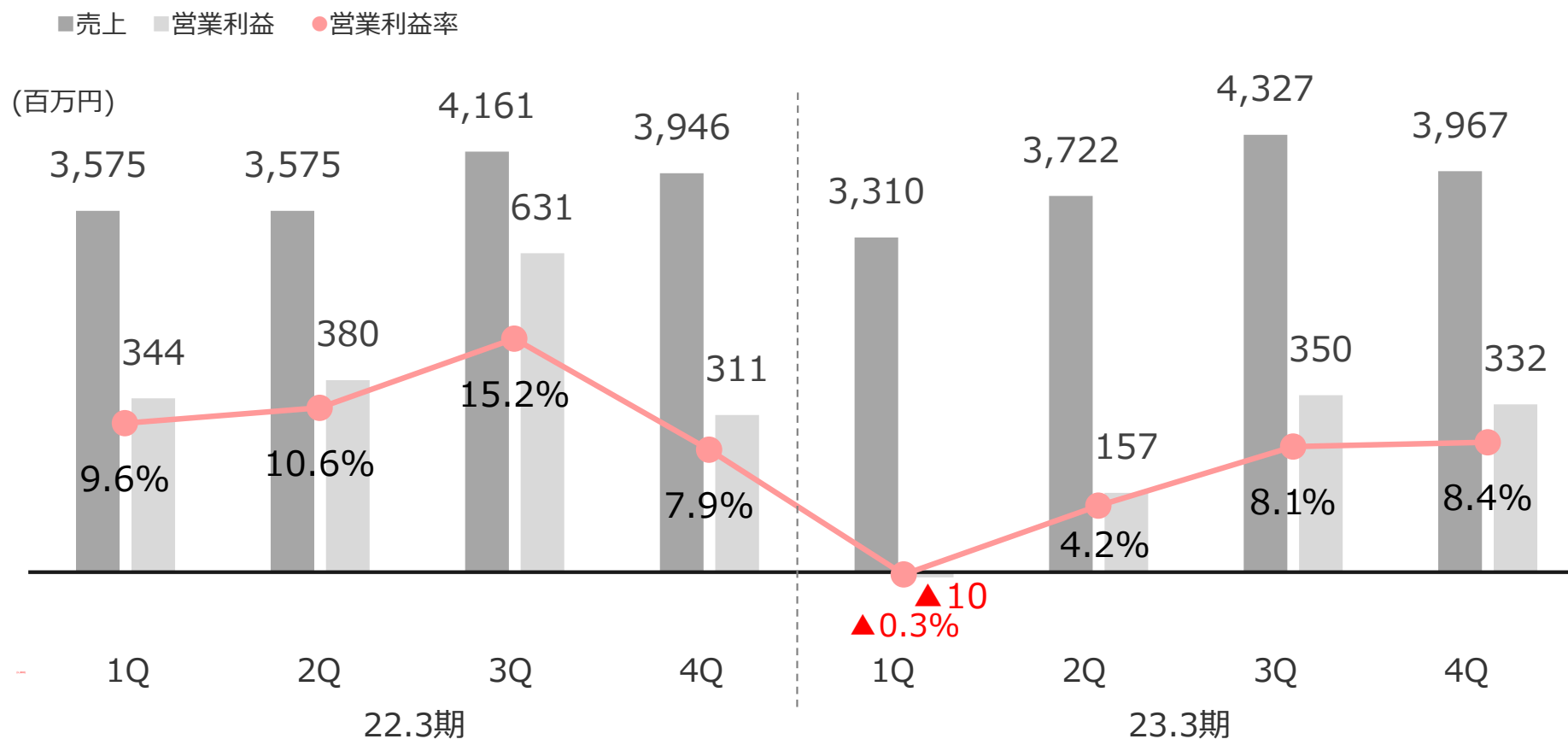
- 販売量の回復、前期からの価格改定効果により、増収増益を見込む
 - 想定為替レート：135円/\$

(百万円)	2023年 3月期	2024年 3月期	前期比
売上高	15,325	16,700	+ 9.0%
営業利益	828	1,600	+ 93.1%
経常利益	1,373	1,800	+ 31.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	842	1,200	+ 42.4%

23.3期→24.3期 営業利益増減要因(予想)



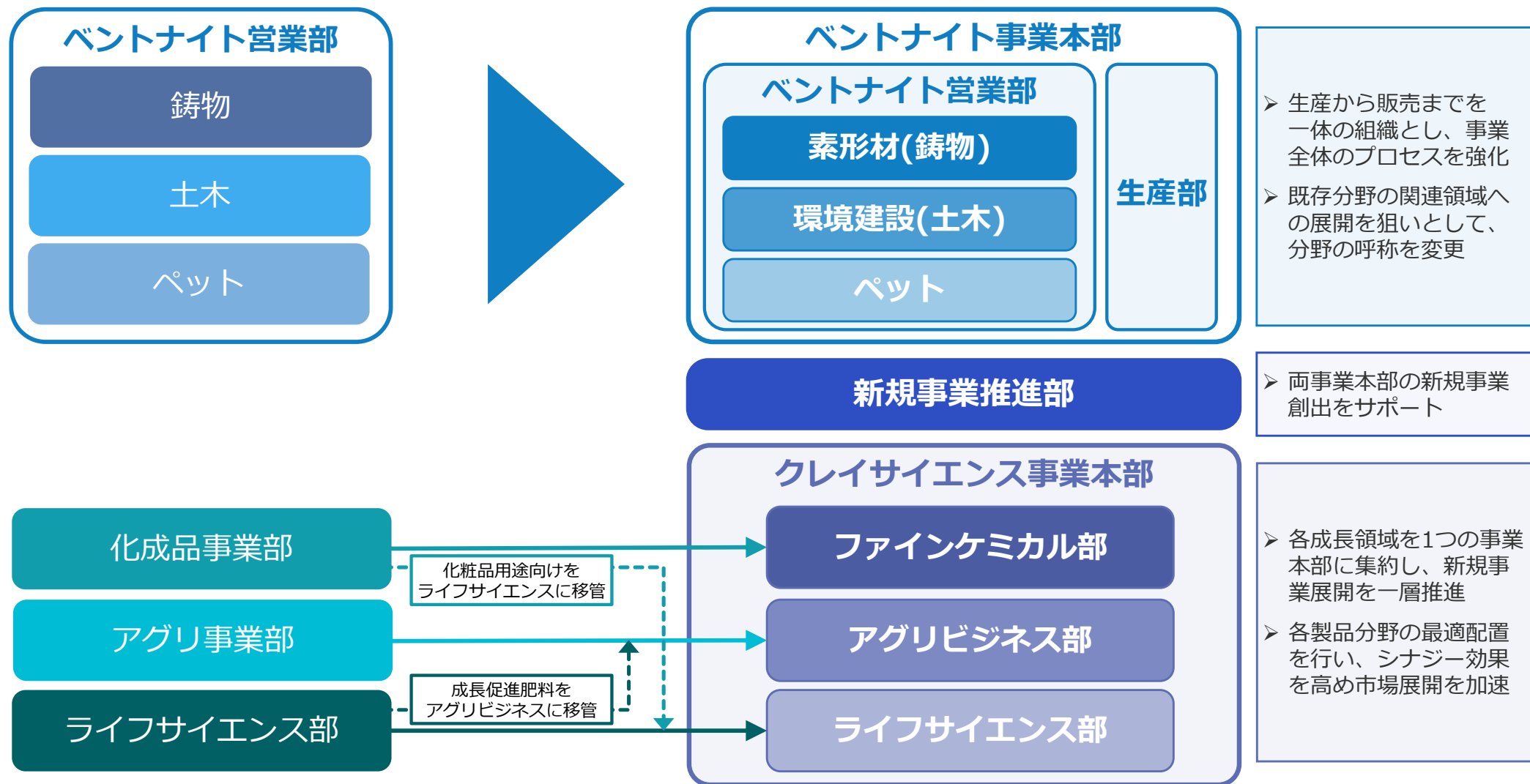
四半期別業績推移



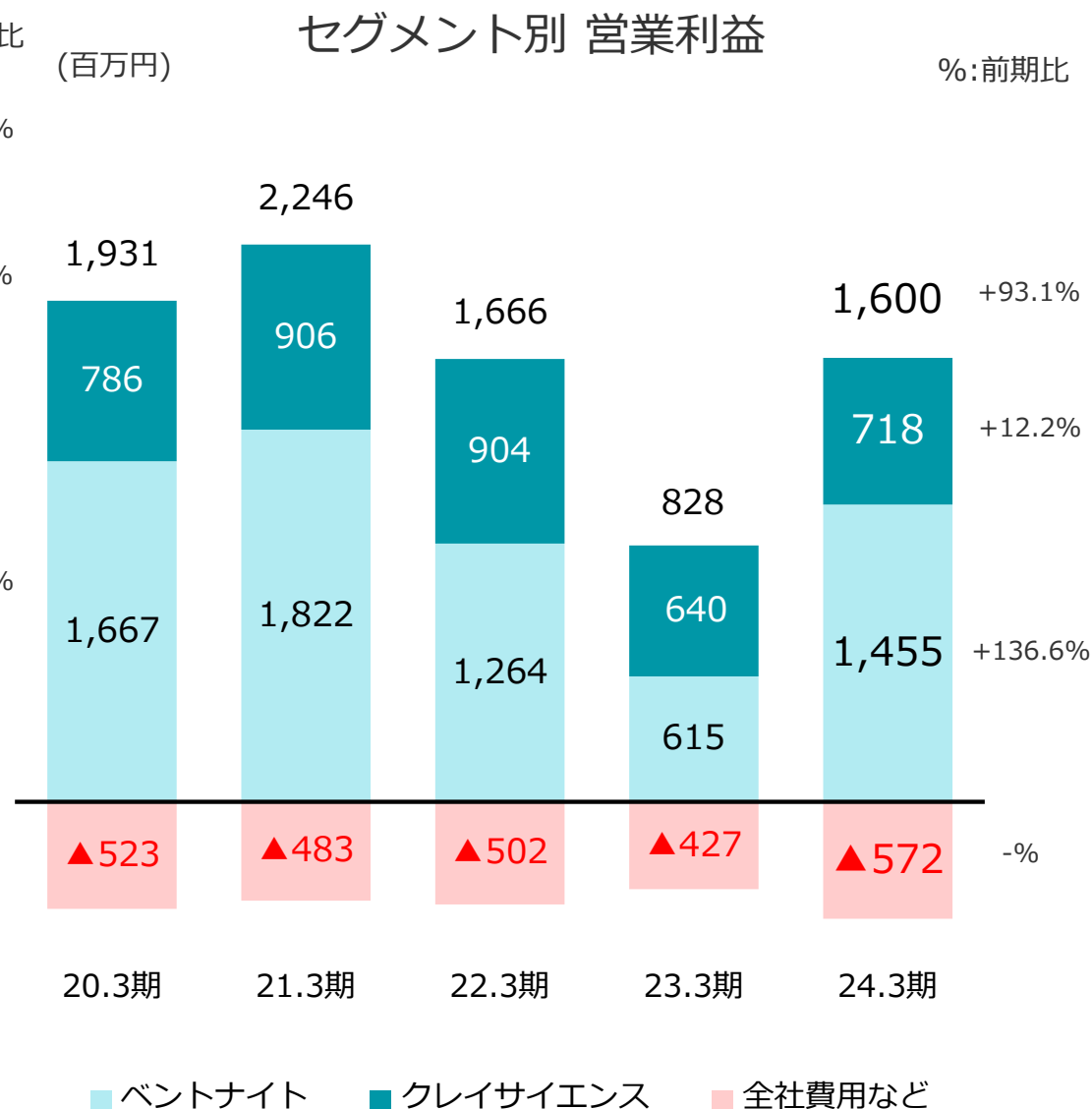
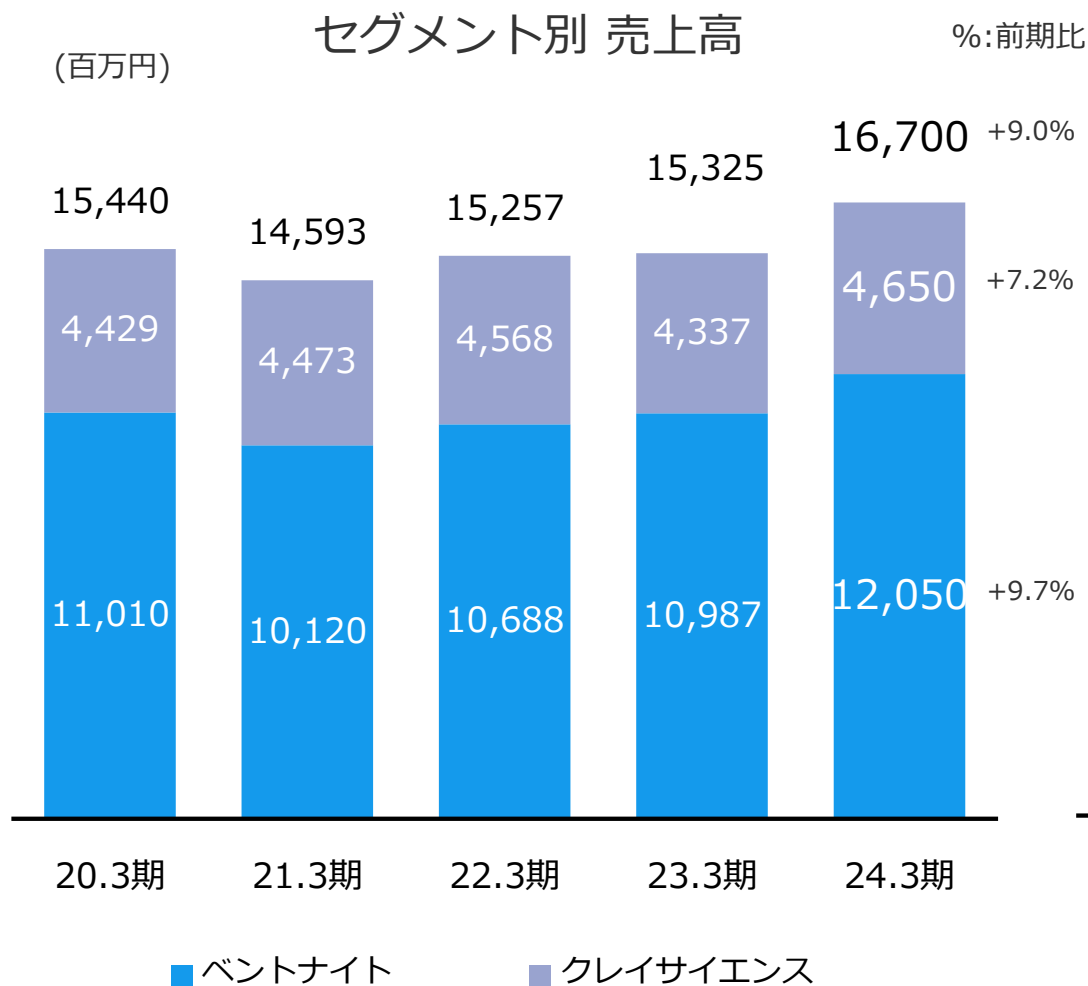
- 22.3期4Qから、円安等のコスト上昇により営業利益率が悪化
- 続く23.3期上期は、原価上昇に対し価格改定が追い付かない状態で、1Qは営業損失を計上
- 下期からは価格改定効果が反映され、営業利益率が回復
- 24.3期は前期の価格改定効果を見込み、増収増益で計画

組織変更について

- 当期より、以下を目的とした組織見直しを実施
 - ・ 事業分野毎の連携の強化と、機動的な事業活動を推進できる組織体制の構築
 - ・ 開発から販売までのプロセス強化および新規事業展開を一層推進



セグメント別業績予想（通期）

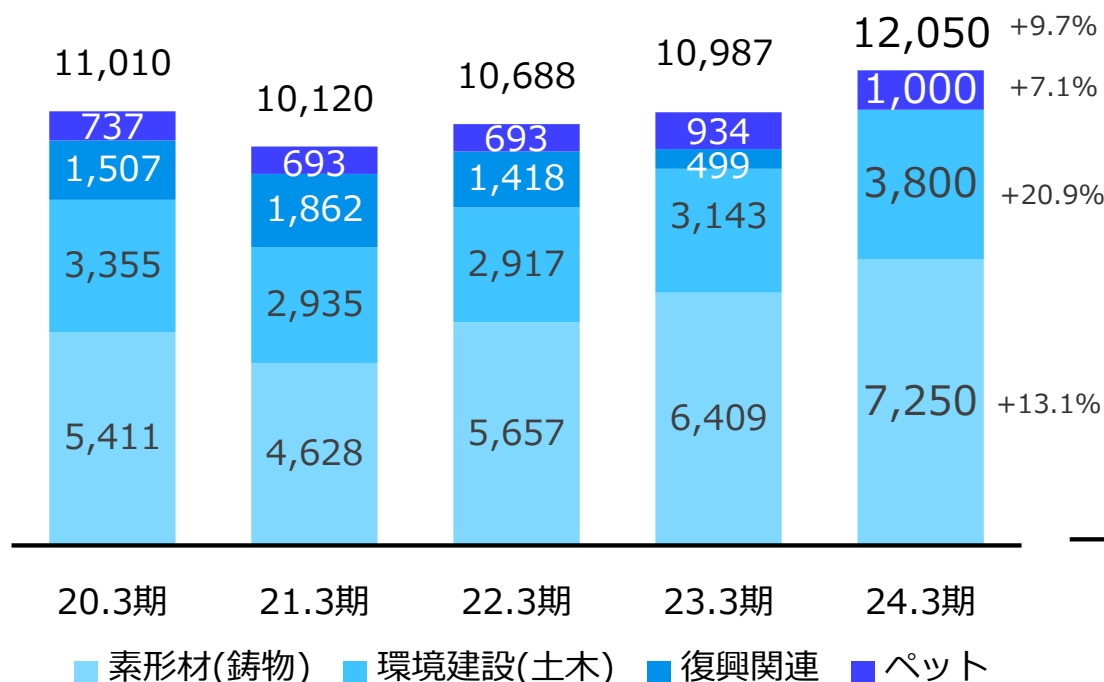


- 各事業の詳細については次ページ以降

ベントナイト事業 分野別業績予想

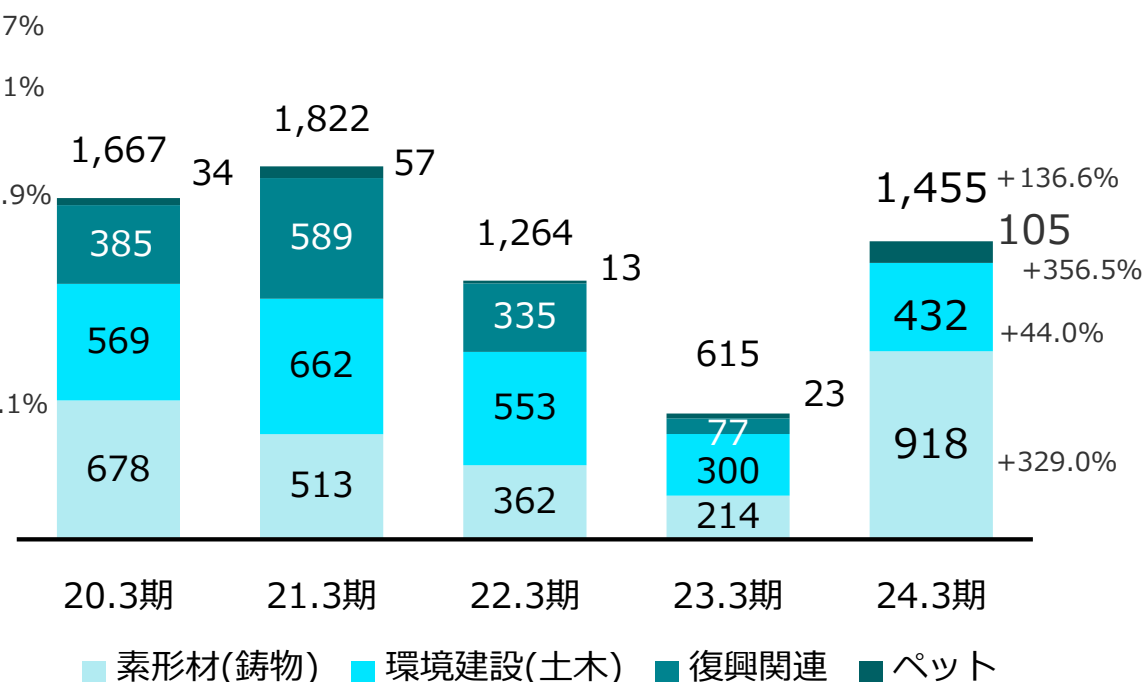
(百万円) ベントナイト事業 売上高

%:前期比



(百万円) ベントナイト事業 営業利益

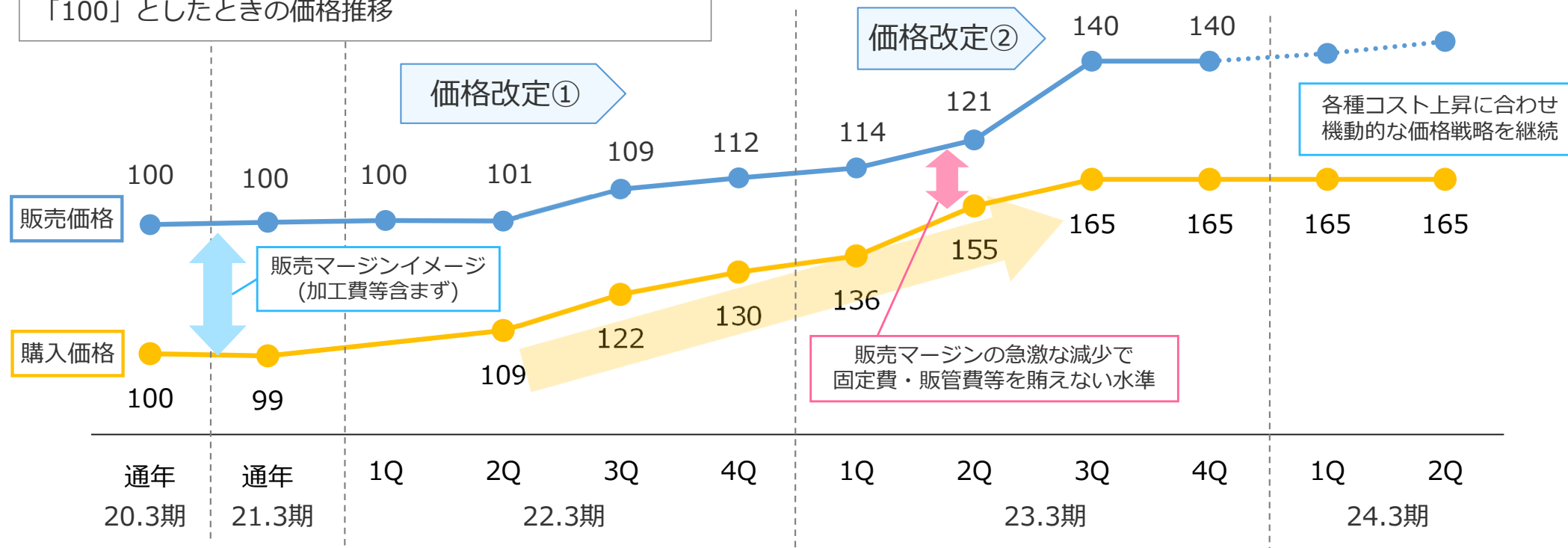
%:前期比



- 素形材(鋳物) …販売量回復・前期からの価格改定により、増収増益
- 環境建設(土木) …大型公共工事取り込み・止水材拡販・前期からの価格改定により、増収増益
- 復興関連 …案件終息により今期以降未計上
- ペット …国内でサプライチェーンを完結できる強みを生かし、増収増益

輸入原鉱 購入・販売価格推移(素形材)

※20.3期 輸入原鉱購入価格・加工後製品販売価格を「100」としたときの価格推移



注：購入価格データ欠落部分は、そのタイミングでの購入実績なし

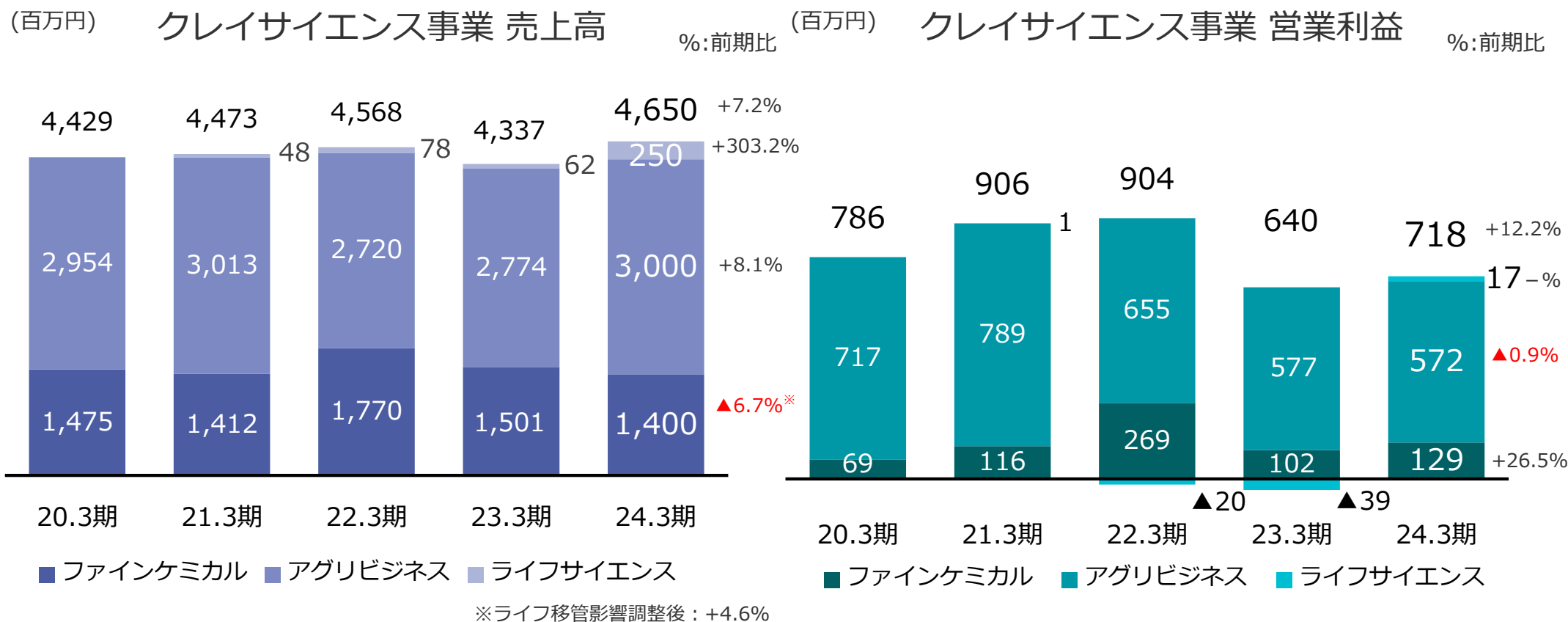
- 輸入原鉱価格は、高止まり懸念があるものの一定程度落ち着きを見せたため、前期の価格改定により販売マージンは回復見込み
- 当期は1Qから利益回復を見込むが、今後も電力料などの各種コスト上昇が予見されるため、機動的な価格戦略を継続

環境建設(土木)延期・停止案件の状況

主要案件	24.3期				25.3期	延期・停止
	1Q	2Q	3Q	4Q		
NEXCO トンネル		工事一部再開				主要工事未定
四国地方 処分場				年度末～来年度 予定		
東北地方 発電所混合土		2Q前半～				
リニア新幹線 関連工事			3Q後半～			
関東・近畿地方 耐震性壁			3Q前半～			
低レベル 放射性廃棄物 処理案件					25.3期中～予定	● 当社販売額 ■ 100百万円以上の案件 ■ 100百万円未満の案件

- 前期に延期・停止となっていた案件の稼働を見込み、当期計画に反映
- 引き続き延期案件の確実な取り込みを図るとともに、次期以降の案件獲得に向けた営業活動を継続

クレイサイエンス事業 分野別業績予想



- ファインケミカル…前期1,501百万円のうち、化粧品用途162百万円をライフサイエンスに移管。当期62百万円の増加を見込む
- アグリビジネス …受託品目構成・単価の見直しにより売上高3,000百万円を見込む
- ライフサイエンス…化粧品用途180百万円と既存用途70百万円を合わせ、250百万円を見込む

注:23.3期までは旧事業組織(化成品・アグリ・ライフサイエンス)の実績を記載

セグメント別 上期下期別業績予想

			23.3期 (上期)	23.3期 (下期)	合計	24.3期 (上期)	24.3期 (下期)	合計
	素形材(鋳物)	売上	3,005	3,405	6,410	3,575	3,675	7,250
		営業利益	▲37	251	214	433	485	918
	環境建設(土木)	売上	1,879	1,763	3,642	1,900	1,900	3,800
		営業利益	240	137	377	212	220	432
	ペット	売上	419	515	934	500	500	1,000
		営業利益	5	18	23	40	65	105
ベントナイト計	売上	5,304	5,683	10,987	5,975	6,075	12,050	
	営業利益	208	407	615	685	770	1,455	
	ファインケミカル	売上	777	724	1,501	700	700	1,400
		営業利益	95	7	102	60	69	129
	アグリビジネス	売上	919	1,855	2,774	1,000	2,000	3,000
		営業利益	32	545	577	▲20	592	572
	ライフサイエンス	売上	30	32	62	125	125	250
		営業利益	▲14	▲25	▲39	7	10	17
	クレイサイエンス計	売上	1,726	2,611	4,337	1,825	2,825	4,650
		営業利益	113	527	640	47	671	718
全社費用		—	▲175	▲252	▲427	▲302	▲270	▲572
グループ計	売上	7,032	8,293	15,325	7,800	8,900	16,700	
	営業利益	146	682	828	430	1,170	1,600	

注:23.3期までは旧事業組織(化成品・アグリ・ライフサイエンス)の実績を記載

1 業績トピックス

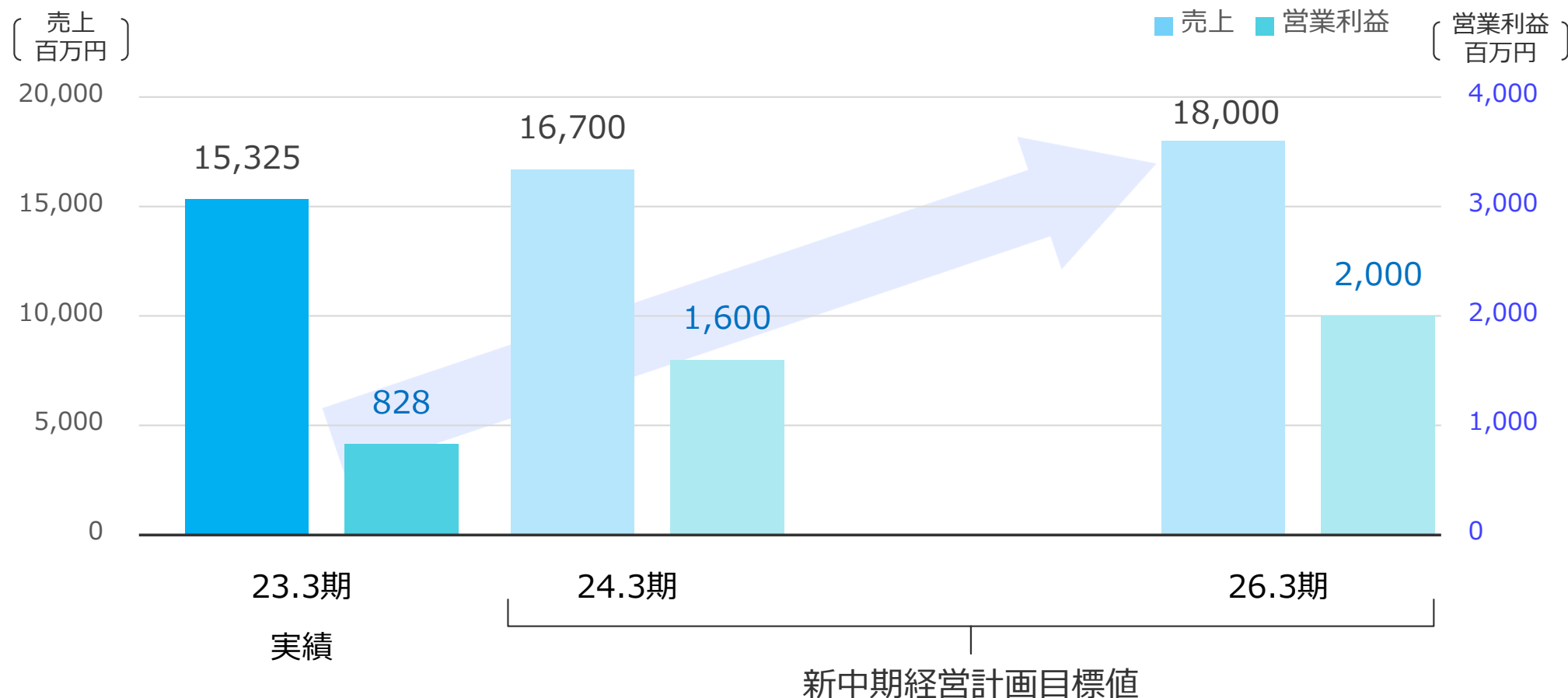
2 2023年3月期 決算概要

3 2024年3月期 予想

4 中期経営計画の状況

5 サステナビリティへの取組み

中期経営計画見直しについて



- 2021年5月12日に中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）を公表いたしましたが、策定当時に比べて、為替変動、原油高、海上運賃高騰等により、計画の前提条件に大きな変化が生じました
- 事業環境の変化を踏まえ、持続的な成長の実現に向けて、今年度に既存事業の強化および新規事業展開を一層推進することを目的として組織変更を行い、新たに中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）を策定いたしました

新中期経営計画(24.3期～26.3期)概要

基本方針

資源を科学して未来のニーズを創造、産業の発展、社会インフラ整備に貢献する

基本戦略

カーボンニュートラル・国土強靱化関連 静脈産業への取組み

- 地熱発電事業／放射性廃棄物処理事業への注力（環境建設分野）
- 森林整備事業（アグリビジネス分野）
- インフラ整備事業（国土強靱化）の取込み（環境建設分野）

新規事業領域拡大

- 種子コーティング技術（アグリビジネス分野）
- ガスバリア材料（ファインケミカル分野）

海外市場展開・海外鉱探査

- 素形材分野、ファインケミカル分野、ライフサイエンス分野のアセアン市場展開
- 高品質原鉱の安定調達に向けた海外鉱利用

企業体質強化

- 人的投資強化(教育＋待遇面)
- ESG経営及びDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- 新鉱区開発、新採掘法開発

数値目標

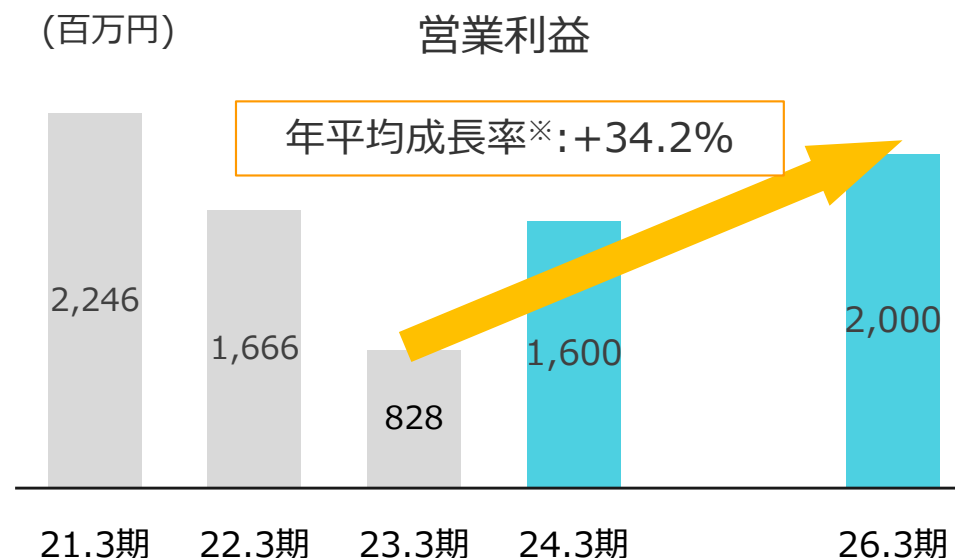
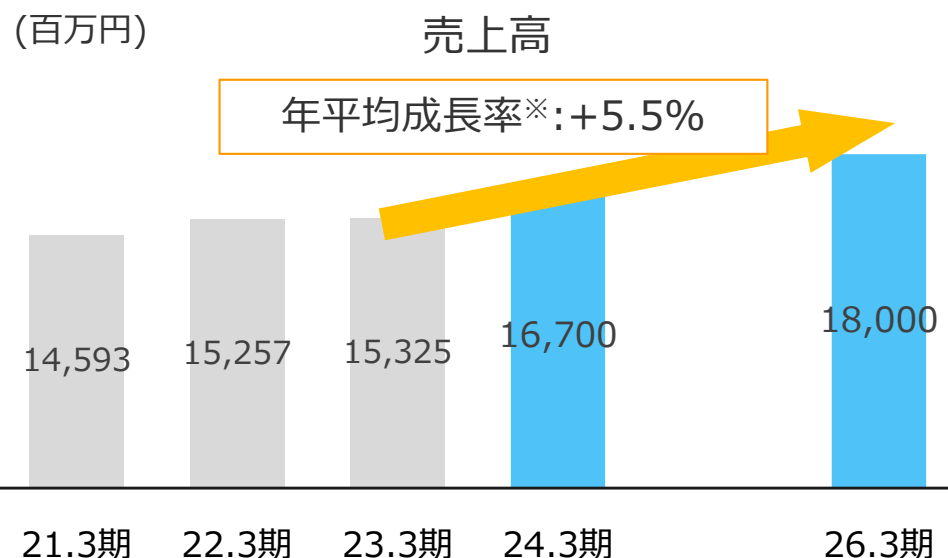
(金額：百万円)	2023年3月期 実績
売上高	15,325
営業利益	828
人的投資(教育)	34 ^{※1}
研究開発投資	866 ^{※1}
設備投資	2,443 ^{※1}
ROE	4.1%



2026年3月期 目標	増減
18,000	+2,675
2,000	+1,172
100 ^{※2}	+66
1,000 ^{※2}	+134
3,000 ^{※2}	+557
6.4%以上	+2.3pt以上

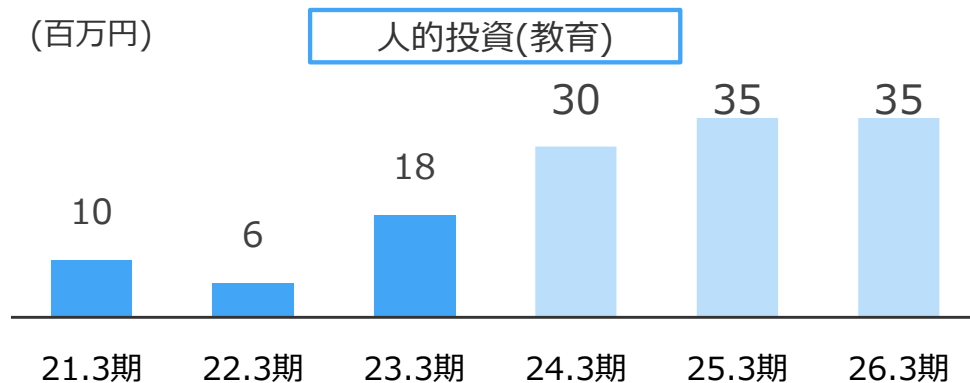
※1：2021年3月期～2023年3月期の3ヶ年累計値

※2：2024年3月期～2026年3月期の3ヶ年累計値

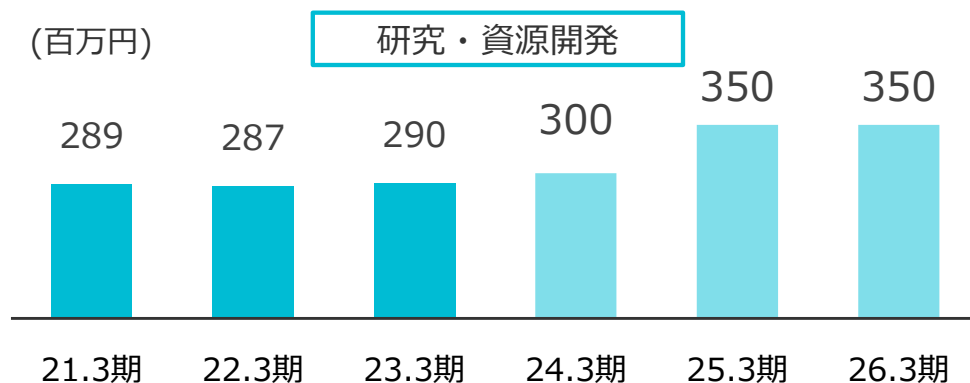


※23.3期～26.3期間

投資計画の状況

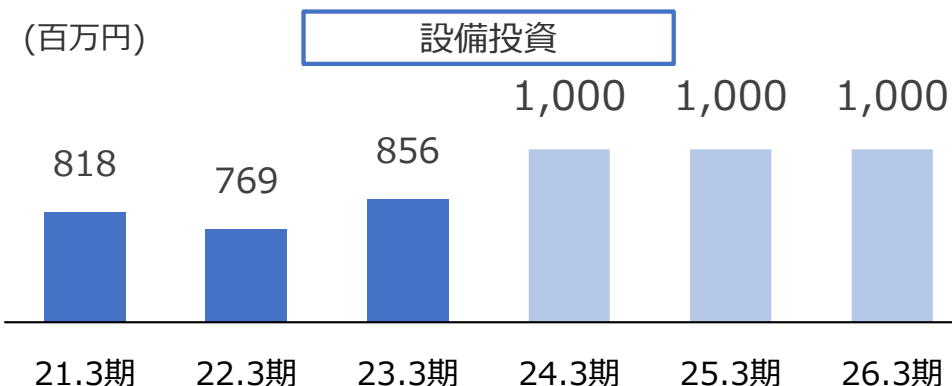


- 先端技術研修、経営層育成研修を継続
 - ・ 社内AIプランナー・エンジニアの育成に向けた教育の実施
 - ・ RPA全社導入に向けた教育・研修実施
 - ・ 次世代経営層育成に向けた研修



- 成長領域での研究開発推進
 - ・ ファインケミカルを中心とした技術開発
 - ・ 各領域での産学官連携による新用途研究
- 資源関係
 - ・ 採掘効率改善に向けた新採掘機開発

※資源開発費を含む



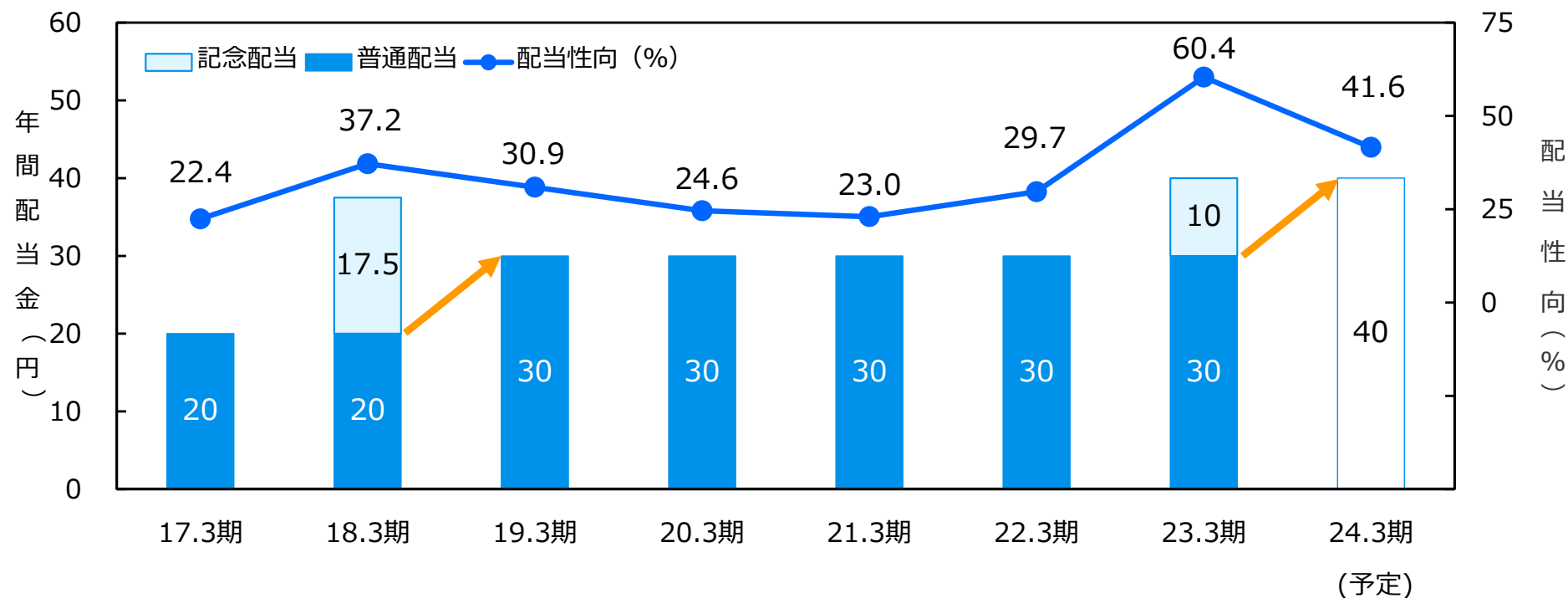
- 成長領域への設備投資強化
 - ・ 研究開発強化に向けた施設整備
 - ・ ガスバリア向け(クニピア)量産設備の導入
- 基幹システム刷新に向けたIT投資
- CO2低排出設備導入(拠点照明LED・EV/HV)

■ 2024年3月期より株主還元を強化

- 創立80周年記念配当(10円)を実施
- 1株当たり年間配当額の下限を40円に設定
- 今期より中間配当を実施予定
- 配当性向30%目安

1株当たり年間配当金			
	第2四半期末	期末	合計
2024年3月期予想	15円	25円	40円
2023年3月期	—	40円※	40円※

※記念配当10円を含む



1 業績トピックス

2 2023年3月期 決算概要

3 2024年3月期 予想

4 中期経営計画の状況

5 サステナビリティへの取組み

サステナビリティへの取り組み

■ 当社グループにおけるサステナビリティの考え方・基本方針

クニミネ工業グループは『経世済民』の経営理念を掲げ、貴重な地下資源であるベントナイトを中心に、高付加価値商品やサービスの展開により基幹産業を支え、国の繁栄に貢献してまいりました。

当社グループが中核事業として取り扱うベントナイトは、自然環境への負荷が少なく、生命体と環境にやさしい無機鉱物です。この貴重な資源を科学し、未来のニーズを創造することで、社会への価値を提供していきたいと考えています。

当社グループの技術を活用して、廃棄物処理などの社会課題の解決や、新たな産業を支援・創出していくことがESGへつながる取り組みと考えており、事業活動を通じて社会的な目標であるSDGsの達成を目指しております。

環境（E）

● 環境へ配慮した取り組みを進めてまいります

- ・ 自社CO2排出量の低減
- ・ 循環型社会の実現を目的とした静脈産業への貢献
- ・ 持続可能な社会に向けた製品の一層の研究・開発の促進



社会（S）

● 人材投資の強化、労働環境を整備し、地域社会に貢献してまいります

- ・ AI教育やRPA研修の推進など人材投資の強化
- ・ 女性活躍推進法の推進
- ・ 育児・介護休暇、年次有給休暇等の取得推進
- ・ 高齢者雇用安定法に適切に対応し、長く働ける環境の整備
- ・ 各拠点の経済活性化のため、地元の自治体や企業との協力



ガバナンス（G）

● リスクマネジメントを強化し、持続可能な経営を目指します

- ・ 取締役会の監査・監督機能の一層の強化のため、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行
- ・ 取締役会の機能の一層の向上を図るため、取締役会の実効性評価を開始
- ・ 内部通報制度の実効性向上のため、独立した社外の内部通報窓口を設置
- ・ 取締役会の透明性を更に向上させるため、独立役員を1名増員して4名体制に(4名/10名)



カーボンニュートラルに向けた取組み

■ カーボンニュートラルに向けた中長期的対応

- 中期的な対応（～2030年）はCO2削減を重点課題とし、太陽光パネル・水力発電(小規模)・高効率燃焼設備・各種省エネ機器等のあらゆるエコ設備の導入を、可能な限り進めていく
- 長期的な対応（～2050年）では、Scope1のCO2削減に向け、原鉱の採掘段階から見直しを進めていく。具体的には原鉱の含水率低減を狙いとし、採掘技術・細粒化技術の高度な開発を進めることで製造工程の大幅な見直しを図る。加えてコストダウンも進め、競争力強化にもつなげていく

Scope2 排出量目標：ゼロ
(全体排出量は、20.3期比較で 40%削減)

Scope1 排出量目標：ゼロ

中期的対応（～2030）

長期的対応（～2050）

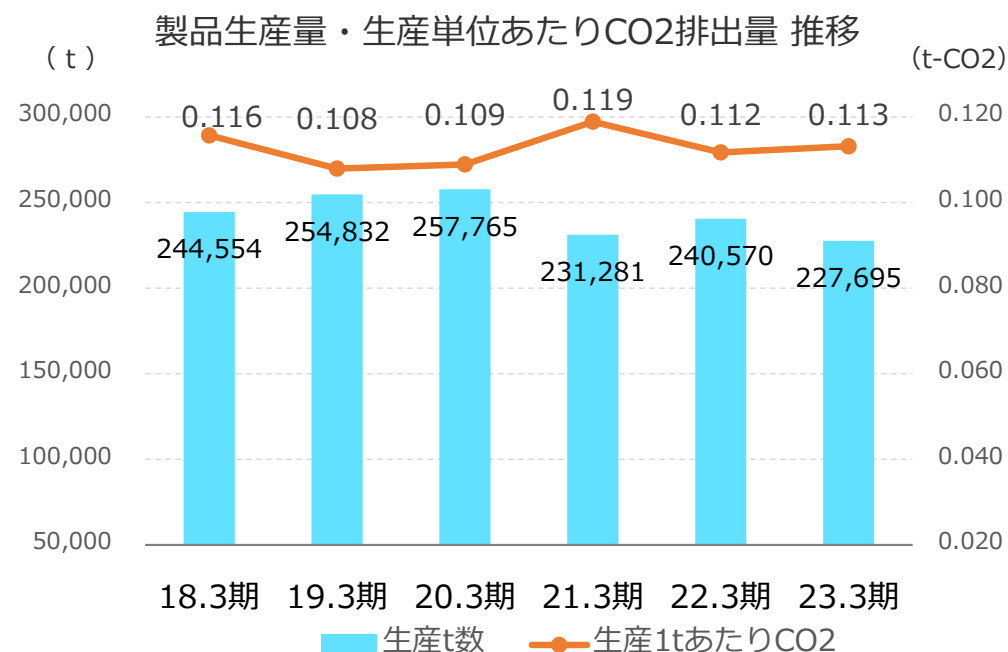
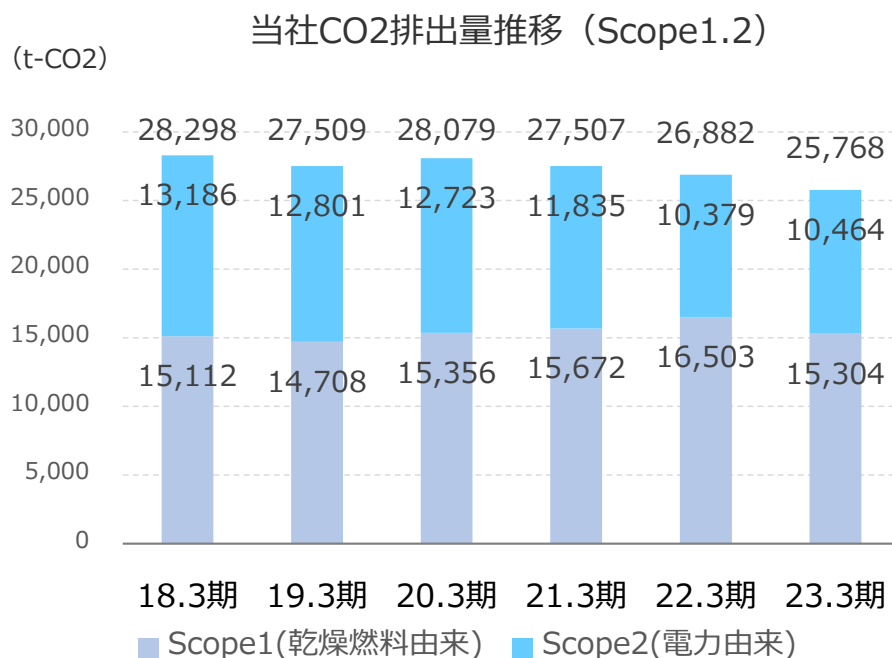
- 高効率燃料への切替え
- 環境低負荷製品へのシフト
- CO2フリー電力切替/太陽光パネル導入
- エコ設備（EV・LED照明等）の導入

- 原鉱採掘・細粒化技術の高度化
- 技術革新燃料(水素/人工メタン) への切替え
：カーボンフリー燃料

● Scope1
● Scope2

領域	24.3期までの取組み内容
Scope1	● 高効率燃料への切替（いわき工場：灯油→LNG）
Scope2	● 車両（社用車/フォークリフト）のEV・HV化
	● 工場照明（水銀灯）、事業所居室照明LED化
	● 太陽光パネルの設置（工場屋根等）、CO2フリー電力切替

CO2排出量の状況



■ 当社グループCO2排出量の状況

- 23.3期の当社グループCO2排出量は、前期比▲1,114t-CO2の削減
- 生産数量の変動も要因ではあるが、20.3期よりCO2排出量削減を継続
- 今後もカーボンニュートラルの達成に向け、Scope2を中心とした削減を進めるとともに、高効率燃料への切替えを図ることで、生産単位当たりのCO2排出量削減を進めていく

* Scope 1 : 製造等での燃料使用によるCO2直接排出
 * Scope 2 : 購入した電気の使用によるCO2間接排出
 * 各数値は省エネ法に基づく定期報告値より作成

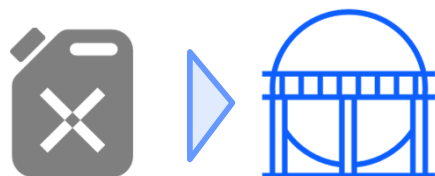
24.3期までの取組み内容

■ 24.3期までの取組み内容

- ・ 気候変動対策への具体的な取り組みでは、生産単位あたりCO2の削減と、2030年のScope2 排出量目標：ゼロの達成に向け、エネルギーの代替・設備の導入を推進
- ・ 具体的には24.3期までを目標に、以下の4つの取組み（①高効率燃料への切替、②車両のEV・HV化、③照明LED化、④発電設備導入）を進め、CO2排出量増加を抑制

①高効率燃料への切替（いわき工場：灯油→LNG）

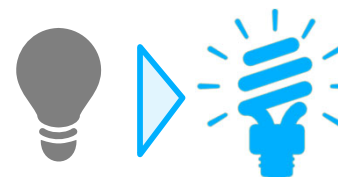
- ・ 高純度品(クニピア・スメクトン等)の乾燥工程で使用する燃料を高効率のLNGに切替ることで、CO2排出量を削減



期待効果：
▲900t-CO2削減

③工場照明（水銀灯）、事業所居室照明LED化

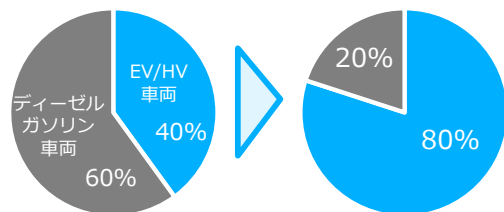
- ・ 工場で使用されている水銀灯と、事業所居室の蛍光灯照明のLED化を推進



LED化目標：
50%(現状) →100%

②車両（社用車/フォークリフト）のEV・HV化

- ・ 車両を現場環境(気候条件・敷地内傾斜)に応じて、EV・HV化を促進

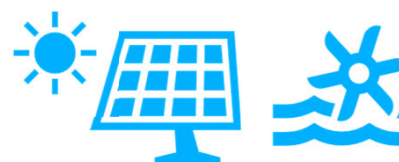


目標：80%
現場環境を加味した
最大値



④発電設備導入(太陽光パネル・小規模水力発電)

- ・ 工場建屋への太陽光パネル設置を推進。日照・気候条件と建屋耐久性等から最適な方法を検討
- ・ 工場近隣の河川・用水路での水力発電設備設置可否確認



各地区工場の環境条件
を確認中

新しい取組み

■ 意匠材料 アクニス-T01販売開始



● アクニス使用例



ファインケミカル分野の新しい取組みとして、意匠材料アクニス-T01を発売いたしました。当製品は、当社コア技術である水熱合成で作られた粘土（スメクタイト）を、水に分散させた製品です。

アクニスは高い透明性とチキソトロピー性（固体と液体の中間的な性質）をもつのが特徴です。例えば、好きな位置に模型を配置したり、動かしたり。これまで空/水中のジオラマ作成で主流だったレジンなどの透明硬化樹脂よりもさらに手軽に利用することができます。

さらに、アクニスでは粘土粒子がとても微細なナノレベルの分散状態にあることから、光散乱効果によって様々なシーンを表現することもできます。

■ 太田工場再エネ比率30%プランへ切替



2023年6月1日より、当社太田工場の電力供給会社との契約を再生可能エネルギー比率30%のプランへ変更いたします。

契約変更によるCO2削減量は、年間で▲30t-CO2の削減を見込んでおり、当工場のCO2排出量の約30%の削減となります。

カーボンニュートラルの達成に向け、今後も全社一丸となって取り組んでまいります。

補足資料



【出展資料(抜粋)】



【受賞ロゴ・トロフィー】

- 2023年5月17日より開催されました化粧品産業技術展 CITEJAPAN2023において、当社のクニピアシリーズ（モンモリロナイト）を用いた界面活性剤フリー乳化粉末技術が「技術部門 銀賞」を受賞いたしました
- 弊社の主力原料であるクニピアシリーズは、山形県の自社鉱山から採掘される高純度モンモリロナイトです。モンモリロナイトが持つ両親媒性の作用により、界面活性剤フリーのピッカリング乳化*が達成できます。さらに、乳化液を粉末化し、水へ再分散することで簡単に乳化液に戻るといった今までにない技術が高くご評価いただきました

※ピッカリング乳化：液体同士が接する面(界面)に固体の粒子を吸着させることで、液体の乳化を安定させる技術

いわき工場 LNG設備導入

東京ガス株式会社
常磐鹿島サテライト



地中配管

- 導入を進めていたいわき工場のLNG設備の運用を、前期4Qより開始いたしました
- 一部切替工事中の箇所はありますが、灯油を使用していた設備をLNG対応に改修した燃料転換効果により、前期4Qは▲200t-CO₂の排出量削減(灯油使用継続との比較)をいたしました
- 緊急時も自動的にガスが遮断されるため、火災等の二次災害の防止にもつながっております

当社いわき工場



● 工場内引込部分



● 緊急遮断装置

- 地震等の緊急時はガスの供給が遮断されるため、火災等の二次災害の発生防止につながります

工場内配管



● 蒸気ボイラ



● 熱媒ボイラ



● 熱風発生炉

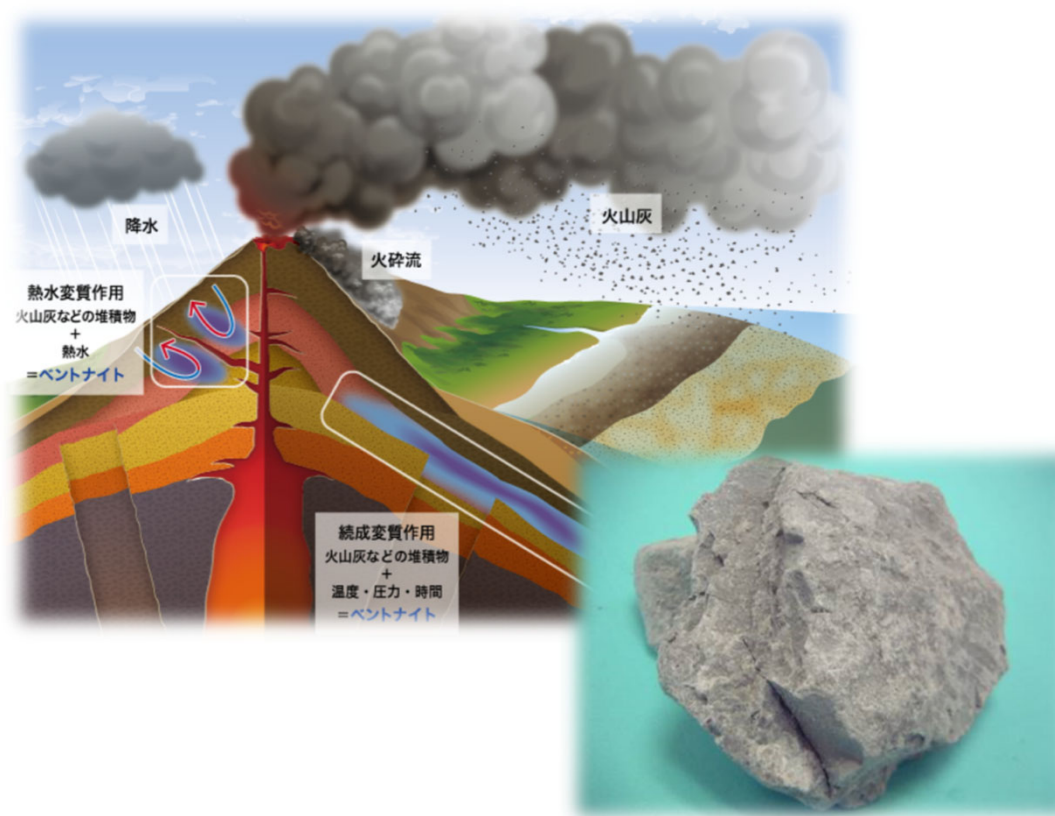
※工場内設備の一部を例示

●ベントナイトとは？

ベントナイトとは、粘土鉱物であるモンモリロナイトを主成分とし、石英や長石などの随伴鉱物を含んでいる弱アルカリ性粘土岩のことを言います。米国ワイオミング州のFort Bentonで発見され、その地名に因んでベントナイトと名付けられました。

ベントナイトは、水中で吸収すると膨潤し、さらに分散させると粘性を示します。また、各種陽イオンを吸着できる能力など、様々な特性を持っています。

このような特性を有していることから、鋳物、土木建築、ペット用トイレ砂や化成品など、利用される産業分野は非常に多岐にわたっています。そのため、ベントナイトは“1,000の用途を持つ粘土”とも称されています。



素形材(鋳物)



自動車や産業機械の部品となる鋳物を造るための鋳型は、ベントナイトを粘結材として砂を成型することで造られます。この鋳型は生産性に優れたものであり、多くの鋳物生産に用いられています。

また、鋳物工場で排出される集塵ダストから重金属の溶出を防ぐ用途にもベントナイトが活用されています。

素形材分野では、ベントナイト製品の販売のみではなく、黒磯研究所での鋳物砂分析などを通じて、歩留まりの改善などお客さまの様々なニーズに応える当社グループ独自のトータルエンジニアリングサービスを提供しています。



主力商品

- クニゲルVAS ●クニボンドTY ●ネオクニボンド
- 「クニボンドM」シリーズ ●「クニボンドTY」シリーズ
- クニフォース

環境建設(土木)

ベントナイトの持つ増粘性、遮水性を活かして、建物の基礎となる杭を形成するアースドリル工法や、一般廃棄物処分場での遮水工事にベントナイト混合土が用いられているほか、「クニシール」や「クニシート」の止水材が、主に地下構造物の防水材料として使用されています。

今後、脱炭素化への流れを受けて、地熱発電や海底資源掘削等のボーリング需要も期待されます。更には、低レベル放射性廃棄物処理用途など、環境負荷が少なくコストパフォーマンスに優れるベントナイトのニーズが高まっております。

引き続き、国土強靱化に向けた国内主要インフラ整備事業への継続的な取組みに加えて、廃棄物処分関連や地熱発電事業への積極的な営業活動を展開してまいります。



「クニシール」

主力商品

- クニゲルV1 ●クニゲルV2 ●クニゲルGS ●クニゲルGT
- クニゲルU ●クニゲルU ●クニキャップTG ●クニシール
- クニシート

ペット



当社新ブランド「RAGDOLL」公式Instagram



ベントナイトの高い吸水性と粘結性を利用し、ペットの尿などの排泄物を固め、手軽に処理するペット用トイレ砂は、私たちの最も身近なベントナイト製品です。

今後は自社製品の取り扱いのみではなく、他ペットメーカーや大手小売店とのPB品の開発も進めるなど、お客さまのニーズへの柔軟かつ迅速な対応を図ってまいります。



主力商品

- RAGDOLL プレミアムサンド ●天然ジビエペットフード
- 猫砂1番 ●猫砂1番金印 ●猫砂1番大粒

ファインケミカル

独自の製法により天然ベントナイトを精製した「クニピア」、合成技術によってつくり出された粘土「合成スメクトン」、さらに合成スメクトンの親水性質を親油性へと改質した「有機化スメクトン」など高機能製品を販売しております。また、ゴミ焼却場の排ガス処理工程において使用される「環境保全処理剤」も当部にて取り扱っております。

ファインケミカル分野における「クニピア」や「スメクトン」は、高純度と特徴づけられる素材の強みを活かし、セラミックス、塗料、樹脂といった工業製品に機能性材料として利用されています。さらに近年は、イオン交換技術をはじめとする、粘土の機能特性をさらに引き出すための技術開発に積極的に取り組んでおり、更なる用途拡大を目指しております。

主力商品

- 「クニピア」シリーズ ● 「スメクトン」シリーズ
- 「モイストナイト」シリーズ ● 環境保全処理剤



アグリビジネス

製剤技術に強みを持つ当社グループでは、農薬加工において薬効成分が放出される速度や量をコントロールする技術などを活かし、国内・海外の農薬メーカーなどから農薬の加工を受注しています。また、農作物や樹木の成長促進剤など、農業分野における多様なニーズにお応えしています。

農薬業界では消費者ニーズの多様化や商品サイクルの短期化に伴い、多品種少量化の流れが加速するとともに、殺虫・殺菌剤と除草剤のクロスコンタミネーションを防止する管理体制や薬害への対策強化が一層厳しく求められています。

当社グループでは、多品種少量生産とクロスコンタミネーション防止に対応できる体制を構築するとともに、独自の造粒技術に磨きをかけながら、受注を拡大してまいりました。

今後もITなどを活用した省人・省力化への設備投資とともに生産管理体制を強化しながら、顧客満足度の向上を目指してまいります。



主力商品・サービス

- 農薬受託加工
- クレー細粒剤 ● クニゲルV1 ● 天竜
- 「クニピア」シリーズ ● 「スメクトン」シリーズ ● クニミネ「ペプチオン®」

ライフサイエンス

当部は24.3期4月の組織変更により、「飼料添加物」や「食品添加物」に加え、「化粧品」用途も加わることとなりました。

「飼料添加物」用途においては、当社ベントナイトがカビ毒吸着能に加え、たんぱく質毒素も吸着する効能を生かし、畜産業界における治療から予防医療へのニーズシフトへ対応するとともに、今後は「動物医薬」用途なども開拓してまいります。

また、当社ベントナイトはクレイの一種として、増粘効果だけでなく吸着剤、乳化安定剤、保湿剤などの成分として多くの化粧品に採用されています。現在、天然由来の化粧品原料が注目を浴びており、精製ベントナイトのクニピアシリーズはCOSMOS APPROVEDを取得いたしました。最近では当社独自の精製技術を用いて、ベントナイトからモンモリロナイトを99%以上抽出した高純度クニピア「クニピア-RF」を上市いたしました。

自然の恵みであるクレイと私たちのテクノロジーを融合し、安心してお使いいただける製品を世界中へお届けしていきます。



主力商品

- クニボンドRT
- ダブルボンド ●ダブルフリー ●土壌改良剤
- 「クニピア」シリーズ

ご視聴ありがとうございました。

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

IRお問合せ先

<https://www.kunimine.co.jp/toiawase/ir.html>